

これでも東京？

@Tokyo

日 本を訪れると、どうしても長めの滞在となってしまう。アメリカやヨーロッパで

の学会のときは、終わったらすぐに帰国してしまうのだから、単に距離の問題だけではないの

だろう。以前にも書いたが、東京で用意された宿舎に長逗留していると、わたしは次第に息苦しさを感ずる。大学か図書館と宿舎の往復を繰り返していると、そのうちに集中力を失ってしまうのだ。そうになると、普段は間違いないようなことでも、ミスしてしまう。

できたら潮風に当たりたい。夕風のビーチを、サンダルを手にして、素足で歩きたくなる。心がりフレッシュされれば、また集中力

も戻ってくる。結局、そのほうが研究の効率がいいのだと思う。

綺麗な海に泊りがけで行けるほどの余裕がないときに、わたしは無理やり時間をつくって、日帰りで近辺の山に行く。

JR青梅線の鳩ノ巣駅で下りて、鳩ノ巣溪谷を歩く。多摩川が関東山地を深く侵食してできた溪谷だ。白丸湖まで、遊歩道が整備されている。肌を削がれるような多摩川の冷たい水で遊んだことがある。11月に訪れたら、燃えるような紅葉を楽しめた。鳩ノ巣小橋と呼ばれる吊橋からこの時期の溪谷を眺めると、常緑樹に黄葉・紅葉が混じって、思わず息が止まってしまふほど美しい。

標高929メートルの御岳山

に登ったこともあった。東京都青梅市内にある山だからと甘く考えていると、ひどい目にあう。

鎖場やガレ場もある本格的な登山なのだ。山頂近くに、武蔵御嶽神社があった。日本武尊が東征の際に、白狼に導かれて難を逃れた、という言い伝えが残る神社だ。平安時代の延喜式神名帳にも、記載されている。

幅が1メートル強の登山道は、濡れていると滑りやすい。片側は、ほとんどと言っていいほど崖か急勾配の斜面となっているので、足元にも気を配らなければならぬ。

週末だと、登山者も多い。おそらく70代も半ばのご夫婦が、「あとちょっとで山頂だからね。頑張らなさい」と声をかけなが

ら、わたしを軽々と追い抜いていった。

下山すれば、門前町の小さなお土産屋兼食堂で、お蕎麦をいただく。肉体は疲労困憊しているのに、翌日からの過密なスケジュールに臨む勇気が、そこはかとなく湧き上がる。帰りの電車では、だいたい眠ってしまう。

御岳山のさらに奥にある大岳山(標高1267メートル)、鋸山(同1109メートル)、御前山(同1405メートル)、あるいは鳩ノ巣駅の北側に位置する川乗山(同1363メートル)や本仁田山(同1225メートル)には、まだ登っていない。どれも東京都内に聳える山である。そのうちに泊りがけで挑戦してみようと思っている。